

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

代数学概論では、中間テスト20点×二回、期末テスト50点、レポート10点の配点で行った。日々の努力が適切に反映されたと思う。

レポートに記載が必要なポイントを決めて配点しておき、100点満点で採点し、素点を出し、受講状況を勘案し、以下の基準で評価した。通常は素点で評価するが、今回のみ、受講の状況を勘案した。
 $D < 40 \leq C < 60 \leq B < 70 \leq A < 80 \leq S$ で採点、 $D < 60 \leq C < 70 \leq B < 80 \leq A < 90 \leq S$ に換算。
有機化学実験:D0, C2, B6, A1, S3

試験と授業への参加態度

授業で実施された計3種類の課題ごとに、発表の完成度、課題の提出状況、出席状況を数値化し、それらを総合評価したものを最終評価とした。

主に、最後に実施した試験の成績を利用した。そこにレポートの成績、出席状況を加味して、総合的に成績を判定した。

- ・「地質学演習」は、出席を前提として、レポート内容と授業中の姿勢(発言内容等)で結果を出した。
- ・「基礎地球科学A」は、出席を前提として、期末試験とレポート内容で結果を出した。

出席点15%、筆記試験85%で成績を出した。A評価も数名いたが、全体的にB評価あるいはC評価が多かった。

おおよそ筆記試験70%、演習30%を評価基準に学業成績をつけた。

必修でない講義を取ってくれた学生には、そのチャレンジ精神を評価して、高めの成績を出しました。レポートでは、その内容はもちろん、論理的な思考が来ているかどうかを評価の対象に入れました。

期末試験・レポート評価が主たる材料であるが、その他、出席、受講態度等を加味し総合的に評価している。試験・レポートの採点においては、答えの正否のみならず、論述内容に重点を置いて評価している。評価基準はおおむね以下の通りである。

- ・論述は不十分であるが、基礎問題が来ている場合は「C」、これにも満たない場合は「D」、
 - ・講義で説明した基礎事項の理解度に加え、論述の質により「A」または「B」を判断、
 - ・基礎から発展に至るまで十分な論述内容を伴っている場合は「S」としている。
- なお、試験の点数がボーダーライン上にある場合は、欠席回数や受講態度を考慮し最終評価としている。

中間試験(またはレポート)50点、期末試験50点、その他出席課題などの平常点として20点を加味した。

レポートにおいては、次の4点を事前に示したうえで評価をした。授業中のプレゼンテーション演習の参加も評価に加えている。

- ・論旨が明確であること
- ・新たな発見や学びが明確に示されていること
- ・感想ではなく客観的事実をもとにした意見文であること
- ・報告書としての書式体裁が整っていること(引用・参考資料の明示)

レポートでの評価であるが、私が授業で話した内容(特に野外や博物館での実習)がどれだけレポートに反映されているかを評価の基準としている。レポートで単に私がホワイトボードに板書したものをそのまま写真に撮って、それを貼り付けているものがあったが、このような者は極めて低い評価とした。(非常識だと思われる学生がいた。)

毎回の出席・レポート(40)と試験(60)の合計で出しました。

基本概念の習熟がみられるか。その上で計算力が養えているか。

期末筆記試験の結果から、授業で目指した事柄を最低限理解していると判断できる受講者を合格とした。具体的な成績評価は期末の筆記試験の結果を重点に行ったが、1問テストの結果や出席状況も考慮した。

最終試験の結果が6～7割、それに、課題や小テストの結果が3～4割として素点を計算する。その値の平均、標準偏差をみて、若干の修正を加えて最終結果としている。

・課題提出(計10回)とプレゼンの相互評価(e-learningシステムを活用して計4回)と出席から成績を出している。
・協同学習が多い授業では、個人の成績(授業企画案)とグループの成績(模擬授業)の二つを加味するようにしている。

授業内容をふまえた課題に対するレポートを基本とする。
レポートを書く際のポイントを事前に周知し、それにしたがって評価する。

実験に積極的に参加したか、得られたデータのまとめ方や考察が適切かどうかを提出したレポートを基に判断して成績評価を行った。ここの実験の背景やなぜこの実験を行っているかも重要な要素として成績に反映させた。また、ゼミナールについては自身で行った研究を正しく理解し、分かりやすくプレゼンテーションできているか、また、質問に対しては適切に答えられているかに着目して成績をつけた。他にも他のプレゼンテーションに対して積極的に質問をしたり、疑問点を自身で解消できているかについても考慮して成績に反映させた。

試験のあるものは、試験の結果のみで評価している。発表中心の授業では、評価項目(科学的にを認識する能力、個別の調査に基づいて調べた内容を他人にわかりやすく伝える能力、報告書作成における論理的な文章作成能力)を5段階で評価し、すべてを合計して評点とした。

主に期末試験の点数で評価した。合格基準の点数未満で、ある点数以上の学生に対しては、追試験を行った。
任意であった練習問題を提出した学生に対しては、付加的な点数を与えた。

[授業コード1***]レポート20点、テスト80点、計100点において、通常のルールに則った基準による成績。授業への積極的な参加(発表、発言)も評価に入れた。
[授業コード2***]最終発表(準備、発言、プレゼンの中身など)、積極的な授業参加。

出席点、ほぼ毎回提示した課題、期末試験を基に採点しています。配点は授業ごとに若干異なります(出した課題の点数などで調整)。

3回提出のレポートをS,A+,A,B+,B,C,Dの7段階で評価し、それを点数化してその平均点で評価した。課題は、データを見て自分の考えをまとめるもの、課題について調べまとめるもの、授業で説明した内容の応用問題などである。
提出されたレポートの完成度は、作成に要した努力の程度の違いが大変良く反映されており、出来不出来の差は大きかった。